

平成25年度道徳教育実践研究事業実績報告書

1 研究指定校の概要

指定校名	あわ どんり 阿波市立土成中学校
校長名	塩田 昭治
所在地	阿波市土成町吉田字一本松の二-42番地
電話番号	088-695-2008
参考URL	http://www.e-school.e-tokushima.or.jp/awa/jh/donari/html/hdocs/

2 研究課題

(1) 研究主題

心の活力を高め、豊かな生き方を育む道徳教育

(2) 設定理由

生徒は日々の生活や教育活動の中で様々な道徳的価値に触れている。しかし、自分自身の中にそれを受け取る体勢ができていないため、それに気付かず通り過ぎていてのではないかと考える。これらの価値を敏感に受け取るための心の準備である「心の活力」を高めることによって他の人の生き方に感動し、自分の生き方を見つめ直したり、自然の雄大さや崇高さに畏敬の念を抱き、改めて人間存在の意味を考えたりすることができる。それが生きることのすばらしさの自覚や自尊心の形成、他者への思いやりにつながると考える。

3 研究の概要及び特色

(1) 全体計画別葉づくりの改善

昨年度に行った全体計画別葉の作成では、全教師で行うことにより、道徳教育に対する理解を深めることができた。しかし、その全体計画別葉を他教科の教師が見ても、そこに表記されている各教科等の内容と道徳教育の内容項目に、どうしてかわりがあるのかを把握することができなかった。そこで、他教科の教師が見ても、各教科等の内容と道徳教育の内容項目とのかかわりが理解できる工夫をすることにした。

また、解説の中で各教科等の指導を通じて生徒の道徳性を養うための視点として、「道徳教育と各教科等の目標、内容及び教材とのかかわり」の他に「学習活動や学習態度への配慮」が挙げられている。日頃から教師は、生徒が学習に興味・関心をもち、主体的に取り組むために様々な工夫をしている。例えば、グループ学習等を行う際には、学び合う協力的な雰囲気づくりのために様々な配慮をするなどである。それは、学習効果を高めるだけにとどまらず、望ましい道徳性を育てることにつながっている。「学習活動や学習態度への配慮」が生徒の道徳的な学び、道徳性の形成に影響を及ぼすことに眼差しを向けることも道徳教育の充実に向けて重要ではないかと考えた。

そこで、日頃の学習場面における配慮について、道徳性を養うという視点からとらえ直すことにした。また、各教科等担任が日頃行っている「学習活動や学習態度への配慮」を共有することにより、共通理解が図れるだけでなく、教師相互の学び合いからさらなる指導の向上に結びつくのではないかと考えた。

「全体計画別葉づくりワークショップ」の手順は次のとおりである。

①道徳教育とのかかわり等を付箋紙に記入する。

まず、付箋紙に教科名、関連する内容項目、単元及び教材名を書いた。また、他教科の教師が計画を見てわかるようにするため、内容項目と学習内容や教材、さらに、具体的な内容も付け加えた。それが、図1である。

図 1

教材名	内容項目	単元及び教材名
内容及び教材とのかかわりを具体的に書く		

②付箋紙を整理する。

図2のように書かれた模造紙を用意し、図1の付箋紙をKJ法的に貼っていく。その際に、付箋紙を貼りながら説明も行っていく。そのことにより、各教科の内容と道徳教育の内容項目とのかかわりを理解することができる。

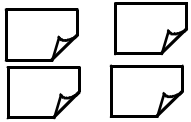
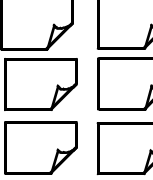
道徳教育と各教科等の内容及び教材とのかかわり	道徳の時間	学習活動や学習態度への配慮
	【4月】 自己と集団 オリエンテー リングの失敗 【5月】	

図2 整理するフレームワークのイメージ

また、他の教師の行っている学習活動や学習態度への配慮について説明することで、生徒に対する思いや願いも語られる。そこから基本的な学習習慣を確立するための手だてや思いやりのある人間関係づくりのための配慮が共通理解され、教科の壁をこえての学び合いがうまれる。その様子が写真1である。



写真1 ワークショップの様子

(2) 道徳の時間の指導の充実

道徳の時間は道徳教育の要であり、各教科等の指導を補充、深化、統合するものである。しかし、実際には言葉の理解にとどまっているのではないかと感じていた。そこで、本年度は補充、深化、統合を意識して道徳の時間の指導を行うことにした。

(3) 生徒の自己評価ノートの作成

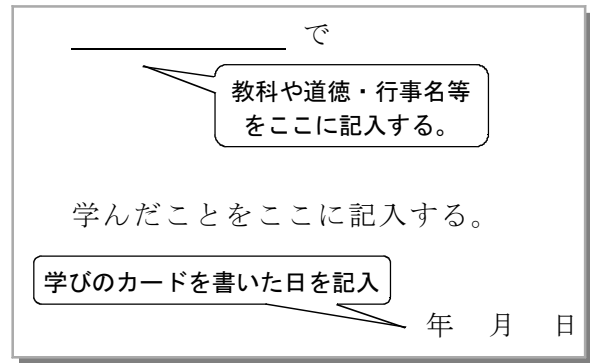
解説書の中でも述べられているが、道徳教育においては、生徒自らが自分とのかかわりの中で道徳的価値をとらえ、そのことにあわせ自己理解を深め、道徳的価値を自分なりに発展させていくことが重要になってくる。生徒は日々の生活や教育活動の中で様々な道徳的価値に触れている。そこで、生徒自らが道徳的価値に気付かせ、自らを振り返ることで、道徳性の育成を図ろうと考えた。そのためには、自己評価法が有効ではないかと考えた。自己評価法の手順は次のとおりである。

①心のノートから

心のノートのP7からP9にある「私の課題」を書く。「自分を見つめ伸ばして(自分自身について)」、「思いやる心を(他の人とのかかわりについて)」、「この地球に生まれて(自然や崇高なものとのかかわりについて)」、「社会に生きる一員として(集団や社会とのかかわりについて)」の4つの欄に自分の課題や目標を書かせる。

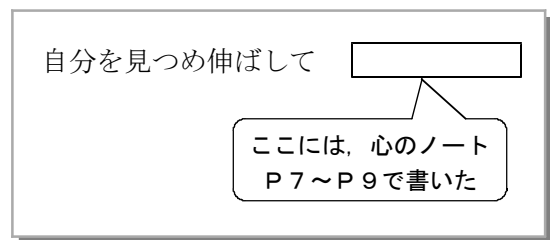
②道徳的学びの視点からの振り返り

教科等で学んだ後、名刺大の「学びのカード」に学んだことを記入する。ここでは、全体計画別葉にかかれた「道德教育とかかわりのある各教科等の内容及び教材や道德の時間」を終えた後、感じたことや考えたことを「学びのカード」に書かせる。教科等で学んだことを、道德的学びの視点から振り返らせることによって、道德的価値に気付かせようと考えた。



③ 高次思考からの振り返り

心のノートのP7～P9の4つの項目「自分を見つめ伸ばして（自分自身について）」、「思いやる心を（他の人とのかかわりについて）」、「この地球に生まれて（自然や崇高なものとのかかわりについて）」、「社会に生きる一員として（集団や社会とのかかわりについて）」を見出しに書いた紙を用意し、この用紙に「学びのカード」を貼っていく。その横には、心のノートの「私の課題」で書いた自らの課題や目標が記入されている。そのことにより、自らの課題を常に意識させ、生徒が自らの成長につなげていくことを期待した。



④ 自らを振り返り、道德的価値を自分なりに発展させていく

授業で学んだことを記入した「学びのカード」を見出しを書いた紙に貼っていく。この時、新しく記入した「学びのカード」が、以前に貼っていた「学びのカード」とつながりがないかを考えさせる。そして、つながりのあるものは線で結び、その理由についても書かせる。また、「疑問に思ったこと」や「もっと深く考えたい事柄」についても書かせる。そのイメージが図5である。そして、実際の生徒の自己評価が写真2である。

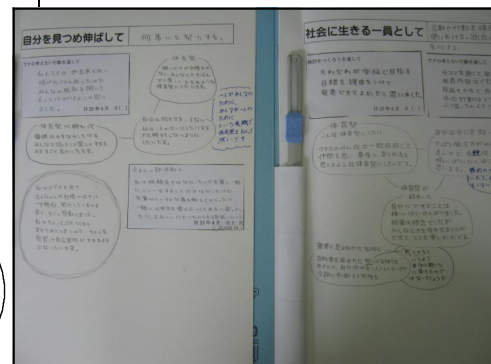
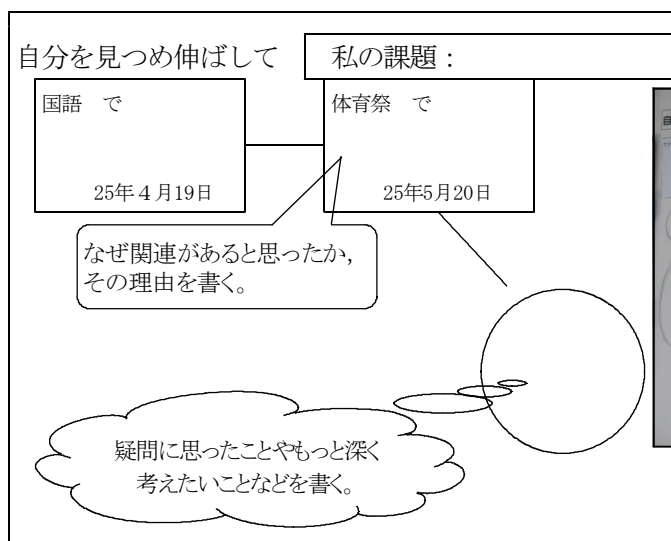


写真2

図5 自己評価のイメージ

4 研究の成果

研究の成果としては、次のことが考えられる。

- 全体計画別葉をワークショップで行うことにより、各教科等で行われている道德教育を理解しやすくなった。
- 各教科等における道德教育の状況が、計画段階と生徒の自己評価ノートからわかるようになり、補充、深化、統合を意識した道德の時間が展開しやすくなった。

5 今後の課題

教師の道德教育に対する理解や取り組みは深まりつつあり、また、生徒も、日々の道德教育を通して、道德的価値に触れ、様々な体験や日常生活の中にある道德的価値に気付きつつあると感じている。これらの変容について、今後の検証によって明らかにしていきたい。また、様々な体験や日常生活について、道德的価値の視点から生徒自らが振り返り、自己理解を深め、道德的価値を自分なりに発展させていくことができるよう取り組んでいきたいと考えている。